



全国的にも珍しい織機を駆使。付加価値の高いものづくり

高い技術力と万全の品質管理で大手下着メーカーなどから信頼を集める小寺繊維。付加価値の高いものづくりを手掛け、これまでゴム入り織物が使われていなかった分野へも販路を広げています。

小寺繊維の強みは技術力にあります。その象徴とも言えるのが「ツインニードルジャガード織機」です。この織機は通常1本の緯糸(よこいと)を2本使うのが特徴です。ミサンガのように立体的な織物や引っ張って伸ばすと下から文字や模様が現れる織物など、付加価値の高い製品を作ることが可能です。石川県内でこの織機を保有するのは同社のみ。全国を見渡しても極めて希少な設備です。



代表取締役
小寺 正樹さん

「この織機は技術が伴わなければ扱えません」。小寺社長がそう胸を張るように、厳しい基準をしっかりとクリアできるような機械を調整するスキルが持ち味。また、織り上げた製品を検品の専門家が毎日チェックし、その履歴を記録・管理するなど、品質管理にも万全を期します。こうした姿勢が大

手下着メーカーなどからの継続的な受注につながっているのです。

強みを武器に新しい仕事の受注に

も力を入れていま

す。この際、社員のアイデアが製品化されるケースも

あります。例えば、同社が製造する酸素マスクの耳ひもは、すれて耳の後ろが炎症を起こしてしまうという祖母の悩みをヒントに社員が考案したものです。

産休・育休がきちんと取得できて、有給休暇も取りやすい職場環境が整備されているほか、毎日ミーティングを開いて、部署間のコミュニケーションを促進。企業の社会的責任を果たしたいとの思いから、障害者を1人雇用している点も温かな社風のとえ言えます。



酸素マスク用の耳ひもやミサンガなど、小寺繊維が手掛けた製品

Staff



検査仕上課検品担当
徳丸 郁美さん
2006年入社

どんな小さな傷も見逃さないよう気を付けています

出来上がってきた製品の検査を担当しています。検査は目視で行っていて、不具合があれば色の付いたテープを貼るなど、次工程に流れないように目印を付けます。

一口に不具合と言ってもいろいろありますが、日頃から、どんな小さな傷も見逃さないよう

気を付けています。不良の出荷を未然に防ぎ、きれいな製品だけをお客様にお渡しできたときにはやりがいを感じますね。

社内では毎日ミーティングを開いて、その日の予定を確認しあうので、段取りが組みやすく、コミュニケーションも

良好です。

子どもの看護が必要な時や学校行事がある日などにはきちんとお休みをいただけるので、助かっています。

これからも安心して使っていただけるよう品質に優れた製品づくりに向け、頑張りたいと思っています。

Topic

データベースを構築し、省力化と品質アップ

小寺繊維では、使用する糸や在庫、加工条件、設計表、損益シミュレーションなどを一元管理するデータベースを2001年に構築しました。省力化につなげると同時に、過去のデータを参照しながら機械を設定することで、より精度の高いものづくりを実現しています。



株式会社小寺繊維

かほく市木津イ13
TEL. 076-285-0462
代表者／小寺 正樹

創業／1961(昭和36)年
資本金／1,000万円
従業員数／15名 (パート含む)

